

授業科目名	演劇ワークショップ実習 B	担当教員	石井 路子 鎌田 麻衣子
必修の区分	選択		
単位数	2 単位		
授業の方法	実習		
開講年次	1 年 第 4 クォーター		
講義内容	冬季集中講義として短期間で集中して、現代演劇および古典芸能について体験的に学ぶために、ワークショップ形式での実習を行う。 現代演劇についてはプロとして活動する劇作家・演出家を招聘し、劇作家・演出家自身の手法について体験する。 古典芸能については大蔵流狂言の能楽師を招聘し、能楽の歴史をはじめとする資料に触れたり、実際に謡や舞について体験的に学ぶ。		
到達目標	1. 現代演劇の一手法について説明することができる。 2. 能楽の歴史について説明することができる。		
授業計画	6 日間の集中講義(1 日 8 時間)で実施する。 1 現代演劇において招聘した劇作家・演出家の手法についての講義を受け、その手法によってどのような作品を創作できるかを考える。 2 現代演劇において招聘した劇作家・演出家の手法をもとに考案した創作作品をグループワークによって実際に上演できるよう稽古をする。 3 現代演劇において招聘した劇作家・演出家の手法をもとに考案した作品について相互に発表し、当該手法によってどのような表現の可能性が見出せたかを相互に批評する。 4 古典芸能について、能楽の歴史の講義を受け日本独自の芸能について学ぶと共に、和物の表現技法について体験的に学ぶ。 5 古典芸能について大蔵流狂言能楽師の家元に代々伝わる衣装や能面を資料として拝見し、歴史を体感する。謡・舞について体験的に学ぶ。 6 能楽師による狂言を一曲鑑賞する。3 日間で習得した謡・舞について発表する。		
事前・事後学習	・授業で学んだことについて毎回授業後に日報を提出する。		
テキスト	特に指定しない。		
参考文献	初めての能・狂言：能楽入門 1 (Shotor Library) 単行本 - 1998/12/14 三浦 裕子 (著)，山崎 有一郎 (監修)，横浜能楽堂		
成績評価の基準	・WS への取り組み姿勢や態度(50%)、日々の WS 日報(50%)		

履修上の注意 履修要件	人数超過の場合は志望理由を参考に選抜する場合もある。
実践的教育	芸術文化分野の実務経験を持つ教員が、その実務経験を生かして教授することから、実践的教育に該当する。
備考欄	